

〈資料〉

本学学生の学修状況の分析

中 村 泰 治 *

要約

本学学生を対象に、第2回目の学修時間及び学修行動に関する調査を行った。前回の調査結果と同様、本学学生は授業時間が週10コマ以上と多いし、出席率も高い。しかし、授業時間を除けば、授業に関する勉強時間は週4時間以下で、授業に関係しない勉強時間はほとんどない。単位取得に関係のある勉強は一応するが、それ以外はしないというのが本学学生の学修状況といえよう。今後も能動的な学修態度を身につけさせる指導を継続して強化する必要があるだろう。

キーワード 学修時間、学修行動、能動的学修

目次

- 1 はじめに
- 2 調査の実施概要
- 3 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（1）
- 4 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（2）
- 5 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（1）
- 6 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（2）
- 7 まとめ

1 はじめに

本学学生の学修状況（学修時間及び学修行動の実態）については、すでに2年前に調査を行い、その結果を分析し公表している。その結論は、本学学生は「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」というものであった^[1]。

大学生は、児童・生徒のように「学習」をするのではなく、「学修（主体的な学び）」をするものだとなると、本学学生の学修状況は満足すべきものではなかったといえよう^[2]。

そこで、本学は、各教員に卒業論文作成の準備練習をさせることを奨励したり、学生のプレゼンテーション能力を向上させる指導を奨励したりして、学生の「学修」態度の涵養に努めてきたのであるが、こうした奨励策を今後も継続してよいのか。それとも、本学学生の学修態度を変化させるために、別の奨励策を採用すべきなのか。

こうした問題に答えるために、今回第2回目の学修状況の調査を行った。ここに、その結果を分析し報告する^[3]。最初に調査の実施概要を述べた後、調査結果に1年生から3年生へと順次分析を加えながら、本学学生の学修状況を明らかにしていく。最後にまとめを行うので、これが多少とも本学学生の学修状況の改善、とくに教育の質的転換（いわゆるアクティブ・ラーニングへの転換）をベースとした学修状況の改善に役立つことを期待したい^[4]。

2 調査の実施概要

調査の実施概要は、以下の通りである。

- ①期間：2週間（2016年7月12日～7月25日）。
- ②対象：本学の1年生及び3年生の全員。
- ③方法：無記名式アンケートの配布と回収。
- ④内容：学修時間及び学修行動に関する実態調査。

3 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（1）

質問は2年前とほぼ同様、全部で14問あった。内容的には大きく「授業と密接な学修」に関する質問（問1～問9）と「それ以外の学修」に関する質問（問10～問15）に分けられる。

まず、1年生を対象にした前者の質問と回答について報告しよう。

○問1. あなたは1週間に何コマの授業を受けていますか。

これは最も基本的な学修時間である授業時間についての質問である。1年生は90%程度が週12コマ以上の授業を受けている。この数字は前回とほぼ同じで、本学1年生は授業を受けることに前向きな姿勢をもっているといえる^[5]。

○問2. 受けている授業への出席率は平均すると何%位ですか。

授業を受けるにしても、出席率が低いと問題である。それゆえ、これはいわば問1の中身を問う質問である。1年生は90%近くが、出席率80%以上と答えている。本学は出席管理に厳しいとはいえ、出席率は極めて高い。本学1年生の授業を受けることに対する前向きな姿勢には内実があるといえよう。

○問3. 授業を欠席する主な理由は何ですか。

この質問はもともと欠席の原因を探り、それを解消して出席率を高めようと意図したものである。1年生は半数近くが「朝寝坊」を挙げている。次に多いは「その他」であるが、これは交通トラブルなどではないかと推測される。前回は「朝寝坊」が最大の欠席理由であったので、これは青春時代に普遍的な生活習慣に根差すものかも知れない^[6]。

○問4. あなたは受けている授業科目のシラバスを読んでいますか。

シラバスは言うまでもなく授業の目標や計画を示したものであり、予習・復習のガイドにもなるものであって、それを読んでおくことは授業を受ける大前提といえよう。ところが、3分の2以上の学生が「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」をマークしている。これでは、あらためてシラバスの重要性を強調する必要があるといえるだろう。

○問5. 指定された教科書がある場合、それらを読んでいますか。

教科書を読むことが予習・復習の基本であり、授業の理解を高めるものであることは言うまでもない。ところが、「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は合せても20%に満たない。50%以上の学生が、「あまり読んでいない」や「ほとんど読んでいない」と回答している。前回に比べ数字は悪化しており、教科書すら読まない学生が増えているようである。

○問6. 先生の指定する参考書・参考文献がある場合、それらを読んでいますか。

これは前問とほぼ同じ質問であり、回答も前問とほぼ同じ傾向を示している。「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は10%に満たず、逆に70%以上の学生が「あまり読んでいない」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

以上の回答結果を小括してみると、授業にはよく出ているが、その理解を高める努力はしていないということになるだろう。

○問7. 授業の予習・復習をしていますか。

この質問の回答は上の小括を裏づけるものである。すなわち、「ほとんどの科目で予習・復習をしている」と「だいたいの科目で予習・復習をしている」をマークした学生は合せても10%程度に過ぎない。逆に80%程度の学生が、「あまり予習・復習をしていない」と「ほとんどの科目で予習・復習をしていない」と回答している。この数字は前回とほぼ同じで、本学学生は、依然授業に出て先生の話聞いて、それでお仕舞ということのようである。

○問8. あなたはこれまでにオフィスアワー（指定された時間に先生の研究室を訪ねること）を何回くらい利用しましたか。

授業でよく分からないと思った時や授業の内容をもっと勉強したいと思った時、オフィスアワーを利用することは効果的である。しかし、回答を見る限り、80%以上がオフィスアワーの利用は「2～1回」ないし「ゼロ回」と回答している。ただ、本学では学生への個人面談を義務付けているので、これはオフィスアワーを利用していないということ、先生の研究室を訪ねていないということではない。それにしても、授業についてほとんど質問に行っていないとはいえそうである。

○問9. オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。

これもオフィスアワーを利用しない原因を探り、その解消によってオフィスアワーの利用を促そうという意図をもった質問である。前回と同様、3分の1程度の学生が「オフィスアワーをよく知らないの」と回答していて、圧倒的に多い回答割合である。高校にオフィスアワーがないせいかも知れないが、今後一層説明する必要があることを思い知らされる数字である^[7]。

4 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（2）

次に、「学修時間及び学修行動に関する調査」の後半部分、つまり「授業以外の学修」について尋ねた質問と回答について報告しよう。

○問10. あなたは授業時間とは別に、平均して1週間に何時間くらい授業（単位取得）に直接関係する勉強（授業の予習・復習やレポート・宿題の作成など）をしていますか。

予想していたことであるが、30%以上の学生は「ほとんどしない」と回答し、50%程度の学生が「4～3時間」ないし「2～1時間」と回答している。合わせると80%以上の学生が週4時間以下、つまり1日40分も勉強していないことになる。2年前と同じ嘆きであるが、勉強しない学生と言わざるを得ない数字である^[8]。

○問11. 授業で出される課題（レポート作成や宿題など）で調べ物をする時、主な情報源として何を利用していますか。

これは最近の学生の勉強方法を尋ねる質問である。3分の1以上の学生が「先生の指定した教科書・参考書」を挙げているが、それ以上に「インターネットの情報」を挙げている。図書館で文献を探して課題を仕上げるといった方法は、確実に廃れているようである。

○問12. 学期末試験の時、1科目当たり平均何時間くらい勉強する予定ですか。

まだ定期試験を受けていない1年生には酷な質問であるが、半数以上が「2時間」ないし「3時間程度」と回答しており、20%以上が「4時間」ないし「5時間以上」と答えている。数字は前回とほぼ同様であり、単位取得に対する熱意が感じられる数字である。

○問13. あなたは平均して1週間に何時間くらい自主的な勉強（授業（単位取得）に直接関係しない・しなくなった勉強で、授業で興味を持つようになった勉強や資格・就職のための受験勉強など）をしていますか。

1年生としては当然かもしれないが、90%近くが「2～1時間程度」ないし「ほとんどしない」と回答している。ただ、前回と同様、少数であるが、「11時間以上」と回答した学生がおり、目的意識を持って学修する学生は確かにいるのである。

○問14. 授業時間以外はどこで勉強していますか。

半数以上が「自分の家」ないし「自分の部屋」と回答しており、「大学の図書館」や「大学の自習室」はその半数以下である。2年前の回答と比べると、1年生では、大学は授業を受ける場で、自分で勉強する場ではない、という傾向が強まっているようである。

5 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析（1）

次に3年生について見てみよう。1年生の回答内容は前回とほぼ同じなので、3年生の回答は、彼らが1年生の時からどう変化したかを示す数字ともいえる。

○問1. あなたは1週間に何コマの授業を受けていますか。

3年生はほとんどが10コマ前後の授業を受けている。1年生同様3年生にも授業を受けることに前向きな姿勢を読み取ることができる。

○問2. 受けている授業への出席率は平均すると何%位ですか。

80%程度の学生が80%以上と答えている。1年生に比べやや低い、それでも出席率は依然高いといえる。授業を受けることに前向きな姿勢は続いているといえよう。

○問3. 授業を欠席する主な理由は何ですか。

1年生と同様、約半数の学生が「朝寝坊」を挙げている。次に多いのも「その他」であるが、前回同様、3年生になると10%程度の学生が「授業内容がつまらない」ことを挙げている。上級生の欠席者の多い授業担当者にとっては反省材料になる数字である。

○問4. あなたは受けている授業科目のシラバスを読んでいますか。

3年生も80%前後の学生が「あまり読んでいない」と「ほとんど読んでいない」をマークしている。3年生になっても依然シラバスの重要性が理解されていないということであり、繰り返しシラバスの重要性を説明する必要があるようである。

○問5. 指定された教科書がある場合、それらを読んでいますか。

ここでも1年生同様、3年生も「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は合せても20%に満たない。80%以上の学生が、「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

○問6. 先生の指定する参考書・参考文献がある場合、それらを読んでいますか。

この回答も前問とほぼ同じである。「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は20%に満たず、80%以上の学生が「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

以上の回答結果をみると、3年生になっても、授業には出席してもその理解を高める努力はしていないようである。この間の本学教員の指導にもかかわらず、学生の基本的な学修態度はあまり変わっていないと言わざるを得ないだろう。

○問7. 授業の予習・復習をしていますか。

この質問の回答は上記の見方から予想できる。すなわち、「ほとんどの科目で予習・復習をしている」と「だいたいの科目で予習・復習をしている」をマークした学生は合わせて10%にも達しない。他方、80%前後の学生が、「あまり予習・復習をしていない」と「ほとんどの科目で予習・復習をしていない」と回答している。授業に出て先生の話聞いて、それでお仕舞という態度は依然続いているといえよう。

○問8. あなたはこれまでにオフィスアワー（指定された時間に先生の研究室を訪ねること）を何回くらい利用しましたか。

50%以上が「2～1回」ないし「ゼロ回」と回答している。3年生になっても「ゼロ回」と回答する学生が多いのには驚きである。授業について相変わらずあまり質問に行っていないようである。

○問9. オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。

3年生でも4分の1程度の学生が「オフィスアワーをよく知らないの」と回答している。説明を聞いていないのか・聞いていても忘れていいのか、ともかく残念な数字である。利用しない理由に「先生が忙しそうなので」と回答した学生が15%程度いたが、これは教員側の反省材料である。もっとも、「先生の所に行くのが面倒なので」という回答も15%程度あり、これは教員より学生側に問題があることを示すものといえるだろう。ともあれ、オフィスアワーの利用促進には依然課題が多そうである。

6 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査の結果と分析(2)

次に、後半部分である「授業以外の学修」についての質問と回答について報告しよう。

○問10. あなたは授業時間とは別に、平均して1週間に何時間くらい授業(単位取得)に直接関係する勉強(授業の予習・復習やレポート・宿題の作成など)をしていますか。

3年生も40%程度の学生が「ほとんどしない」と回答し、それと同程度以上の学生が「4～3時間」や「2～1時間」と回答している。合わせると90%近くの学生が週4時間以下、つまり1日40分以下しか勉強していないことになる。3年生になっても勉強しない学生という状態は続いているようである。

○問11. 授業で出される課題(レポート作成や宿題など)で調べ物をする時、主な情報源として何を利用していますか。

3年生も、4分の1程度の学生が「先生の指定した教科書・参考書」を挙げているが、約半数が「インターネットの情報」を挙げている。1年生以上にネットで情報を得る勉強方法が身につけているようである。

○問12. 学期末試験の時、1科目当たり平均何時間くらい勉強する予定ですか。

60%程度が「2時間」ないし「3時間程度」と回答しており、20%程度が「4時間」ないし「5時間以上」と答えている。数字は前回とほぼ同様であったが、単位取得に対する熱意が感じられる数字である。

○問13. あなたは平均して1週間に何時間くらい自主的な勉強(授業(単位取得)に直接関係しない・しなくなった勉強で、授業に興味を持つようになった勉強や資格・就職のための受験勉強など)をしていますか。

3年生になれば、各種の資格取得や就職を意識した勉強を始められると思われるが、80%程度が「2～1時間程度」ないし「ほとんどしない」と回答している。目的意識を持って学修する学生は、残念ながら、ほとんどいなくなっているのである。

○問14. 授業時間以外はどこで勉強していますか。

半数以上が「自分の家」ないし「自分の部屋」と回答しているが、1年生と違い「大学の図書館」や「大学の自習室」と回答した学生も30%程度いる。空き時間などを利用して授業に密接に関係した勉強を大学でしているのではないかと推測される。1年生とは違った「学修」態度が生じているとみてとれることのできるだろう。

7 まとめ

(1) 1年生の学修状況について、概ねこう言えるであろう。

- ① 1年生は授業を受けることに熱心であり、単位取得にも熱意を持っている。
- ② しかし、シラバスはほとんど読まないし、教科書・参考書もあまり読まない。予習・復習はしないし、オフィスアワーも利用しない。授業の理解を深めようとはしないのである。

③したがって、「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」という
前回の結論は、残念ながら、今回も妥当するといえよう。

(2) 3年生の学修状況については、概ねこう言えるであろう。

①1年生同様、授業を受けることに熱心であり、単位取得にも熱意を持っている。

②もっとも、1年生よりはマシとしても、予習・復習はほとんどしないし、授業の理解も
あまり深めようとしていない。

③したがって、「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」という
1年生と同じ学修態度が、3年生になっても基本的には続いているといえよう。

(3) 当面の改善策

①学修する態度の涵養というのは、いわば勉強の習慣の変革であり、本学学生に限らない
と思われるが、一朝一夕にはできず、道半ばの感がある。

②しかし、そうであるからと言って、努力をあきらめては教育の放棄にもつながる。

③課題を与えて文章の作成練習を奨励したり、文章をもとにプレゼンテーションする機会
を増やしたりして、従来以上に「学修態度の涵養」に努め、地道に学修状況を変えて
いく努力を積み重ねていくほかないであろう^[9]。

注

[1] 前回の調査結果は、拙稿(2015年)「本学学生の学修状況について」(浦和大学・浦和大学短期大学部『浦和論叢』第52号)として発表した。

[2] 「学習」ではなく「学修」という言葉を使うのは、「大学設置基準上、大学での学びは『学修』」であるからであり、また、「大学での学びの本質は・・・授業時間とともに・・・事前の準備、事後の展開などの主体的な学び」であるから、「学習」ではなく「学修」が適切ということになる。中央教育審議会(2012年)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」、2頁参照。

[3] アンケート調査用紙にあった質問項目や回答結果の数字分布については、報告の煩雑さを避けるため、後日まとめて示すことにしたい。

[4] アクティブ・ラーニングとは「能動的学修」(前掲、中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」、3頁)のことであり、①従来の講義型の授業ではなく、②課題解決型の授業で涵養されるものである。

[5] 前回も報告したが、別の調査(杉谷祐美子(2014年)「私学高等教育研究所より」、教育学術新聞「アルカディア学報」556号)でも、平均履修コマ数は1年生で「13.5」3年生で「9.6」という数字が示されており、本学学生の平均履修コマ数が特に多いということではない。

[6] これも前回報告したが、別の調査(埼玉大学教育機構(2012年)「学生の学習に関する実態調査報告書」、7頁)でも、授業欠席の理由として「朝寝坊」と「授業内容がつまらない」が上位にあがっている。

[7] 上記の埼玉大の調査(前掲、埼玉大学教育機構「学生の学習に関する実態調査報告書」、9頁)でも、オフィスアワーの一人当たり平均利用回数は「0.3回」となっており、本学学生だけがオフィスアワーを利用していないというわけではない。

[8] 先の調査(前掲、杉谷「私学高等教育研究所より」)でも、約3分の2の学生は「1週間の授業の

予習・復習や課題をやる時間」は「1～2時間」以下と回答し、約4分の3の学生は「大学の授業以外の自主的な勉強」は「1～2時間」以下と回答している。本学学生の授業以外の学修時間が特別少ないということではないようである。

- [9] 前回は述べたが、学生に「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」という傾向があることを前提に、学生に勉強させる処方箋を書くことはある意味で簡単である。それは「十分に時間と労力を費やして勉強しなければ単位の取得や好成績は望めないという状態」(前掲、埼玉大学教育機構「学生の学習に関する実態調査報告書」、41頁)を作り出せばいいのである。ただし、この処方箋は日本の大学の風習を変えるようなもので、当面「言うは易く・行うは難し」であり、実現には相当の時間がかかりそうである。

Summary

The Second Analysis of the Study Conditions of our Students

Yasuharu Nakamura

We tried the second survey about the study conditions of our students. The same as the first time, most of our students take more than 10 courses a week and attend them almost regularly. But their study hours related to the courses are less than four hours a week and their self-imposed study hours are few a week. This may mean that they make minimum study efforts to get necessary credits but do not make any more than them. We need to teach them a more positive attitude to study, such as an active-learning, from now on.

Keywords study hours, study actions, active-learning

(2016年11月10日受領)

